



大切な友だち

下庄小学校 三年 金子 じゅの

わたしのクラスには、二十二人の友だちがいます。わたしは、クラスみんなのことを、大切な友だちと思っています。そのわけは、おもしろいし、心がやさしいし、みんな協力できるからです。

一つ目の「おもしろい」は、休み時間に友だちと話をしている時、だれかが笑わせてくれます。友だちがえがおだと、わたしまで、えがおになって、元気が出ます。

二つ目の「やさしい」は、たとえば、元気が出ないとき、「だいたいどうぶ？」や「どうしたの？」と声をかけてくれます。そんな時、とつてもうれしくなります。だから、次は、わたしも、友だちにやさしいことばをかけてあげたいと思います。

三つ目の「協力できる」は、わたしが、黒板の上の方の字をけすことができなくてこまっていた時、まわりにいた友だちが手助けをしてくれたのです。友だち

ちは、黒板を下げてください、いっしょにけしてくださいしたりした。わたしは、うれしい気持ちで「ありがとう」と言いました。友だちを大切にすると、自分も友だちもうれしくなります。そんなクラスの友だちのことが大好きです。これからは、進んで声かけをします。友だちが悲しんでいる時には、うれしくなるようなことばを言って元気をだしてもらいたいからです。また、遊んでいる時、「遊びにいれて」と言われたら、いっしょに遊びたいです。いっしょに遊ぶと、楽しくなるし、けんかも起きないと思うからです。

わたしの気持ちをわかってくれて、元気にしてくれる友だちを、これからも大切にしていきたいです。

【先生のコメント】
じゅのさん、あなたのまわりには、やさしい友だちがたくさんいるんですね。あなたがクラス友だちから大切にされている様子が伝わってきます。でも、それは、あなたがクラスの友だちのことを、大切にしているからだと思います。これからも、クラスの友だち、みんなでのびていけるよう、お互いを大切にしながらがんばっていきましょう。



教諭 丹羽 朋子さん (44歳)

「小さい頃からなかなか一歩が出ない子だったので、最初の一步を踏み出せない生徒たちの背中を押してあげたいです」

山門高等学校で教職に携わっている丹羽朋子さん。高校時代、国語の先生の授業に憧れ、教師を志した。教育実習の中で、教師として教えるなら『筑後弁を話すふるさとの子がいい』と思い、故郷に戻り教職に就いた。

話す力をつけてほしい 弁論放送部の顧問を務め、生徒たちの『話す力』の育成に励んでいる。中学生のときに弁論に出会い、『人に伝わる話し方』に関心を持ったとのこと。『将来、生徒たちは書くだけでなく、話

さなければならぬ場面が多くあると思うので、生きる上で最強の武器『言葉』を身に付けてもらいたいです」

まずは話せる場面作りから 『話す力』をつけるため、授業中は生徒間で対話をさせ、考えを共有させる時間を設けている。

「生徒には一歩を踏み出すときに私たち教師の意見に流れてほしくはないので、授業や地域間での交流を通して、いろいろな人と出会ってほしいです。そして、『話す力』を活かし、対話して、考え方を取り込んでほしいと思っています」

自分の役割は、生徒たちが『話す』ことができる場面を作ることと語る丹羽さん。生徒間の架け橋にもなっている。

山門高校の良さを活かして 「卒業後いきいきと生きている生徒の姿を見ると嬉しいですし、それまでの苦労も忘れてしまいます」 生徒と教師、生徒同士の距離が近く、家族のようなあたたかさがあることが山門高校の良さであるという。これからも笑顔と愛情を持って、生徒の指導にあたる。



にわ ともこ 高田町竹飯の出身。国語科。瀬高町文庫。【みやま市にひとこと】小さい頃から、地域間、世代間のつながりがいいなと思っています。今も大事なことだと思います。【好きな言葉】誠実さの価値を疑うことなけれ

みやま文芸

真清水俳句会

のんびりと日向ぼつこの猫二匹 森田 蓉子
雪深き春山の尾根ラッセル行 梅野 博山
三寒の一足飛びの四温なる 宮地 末子
風花にはずむ心をささかりし 平井 和子
くまモンに着せてやりたやちゃんちゃんこ 紙田 幻草
しんしんと裏戸に夜の細雪 樺島美代子

清水句会

初春を祝ぐ掛軸や句座の宿 綿貫 惇
大銀杏枝もあらはとなり冬木 田尻カツ子
観音の山懐に御慶かな 綿貫 淑子
鷹舞うて霊山のなほ神申し 古賀 麗子
初詣金鼓一打に願ひ込め 岩屋 清美
寒禽の声の四方より降る古刹 壇 篤子
ぎつしりと願ひのこもる初みくじ 猿渡 洋子